

○大会成績一覧

・名古屋地区1部リーグ

第1節	v s 名東 2nd	2-2	△	
第2節	v s 享栄 2nd	1-0	○	
第3節	v s 名経大高蔵 E	2-2	△	
第4節	v s 大同大大同 C	0-3	×	
第5節	v s 松蔭 B	2-1	○	
第6節	v s 名古屋西	3-0	○	
第7節	v s 愛知総合工科	2-0	○	
第8節	v s 熱田 3rd	1-3	×	
第9節	v s 名城大附属	3-0	○	
第10節	v s 愛知B	2-0	○	
第11節	v s C.C.デソーニョ	13-1	○	7勝2負2引 5位／12チーム 来年度 県4部リーグ昇格

・総体名北支部予選

1回戦	v s 菊華	0-2	×	1回戦敗退
-----	--------	-----	---	-------

・選手権名古屋地区予選

ブロック1回戦	v s 名古屋工科	4-0	○	
ブロック決勝	v s 市立北	1-2 (延長)	×	ブロック決勝敗退

・新人戦名北支部予選

ブロック1回戦	v s 愛知総合工科	5-1	○	
ブロック2回戦	v s 愛知	2-8	×	ブロック2回戦敗退

○主な活動の紹介

<ボールパーソン>

7月5日(土)に行われた、明治安田J1 第23節名古屋グランパス対東京ヴェルディの試合のボールパーソンを、2年生10名でやらせていただきました。

まずウォーミングアップのボール拾いを行い、間近でプロ選手のトレーニングを見ました。そこでプロ選手の一つ一つのボールタッチに対するこだわりの強さを感じ取れました。さらに、試合中には試合の流れや時間帯によって選手の表情やスタジアム全体の雰囲気の変化を肌で感じられてサッカーに対する自分自身の熱量も上がりしました。

適度な緊張感の中でプロの試合に関わることができたことは、サッカーにおいても、これから的人生にとっても貴重な経験となりました。



<フットサル交流会>

7月21日（月・祝）に、オーシャンズフィールドで実施されたU-18 フットサル交流会に選手6名で参加しました。

午前中は名古屋オーシャンズTOPチームのトレーニング見学と名古屋オーシャンズ監督・小暮賢一郎氏によるフットサルクリニックが行われました。フットサルの日本代表コーチに国内トップレベルのオーシャンズの練習を解説していただきた際には、何気ないプレーの中にも自分では気づかなかった工夫やこだわりがあることやフットサルとサッカーの共通点や違いを知ることができとても刺激的でした。また、フットサルクリニックでは他チームと一緒に練習する機会があり、特にオーシャンズの中学生の選手たちのレベルの高さには驚かされました。

午後は、参加7チーム総当たりによる交流戦を行いました。結果は、オーシャンズを除いて2位となりました！はじめのうちは中々慣れずに連携がうまくいかなかったけれども、途中から特に守備を修正し勝ちを重ねることができました。また、このイベントの運営に協力してくださっている大冷工業さんはとても魅力的な商品の紹介をしてくださいり、様々な形でスポーツに関わることができる改めて学びました。

この交流会は、フットサルの楽しさに触れることができた大変貴重な機会でした。



<夏季合宿>

7月27日（日）から3泊4日で夏期合宿を行いました。場所は昨年度同様長野県白馬村にある切久保館所有の天然芝のグラウンドです。この合宿の主な目的は、8月末の選手権に向けたチーム力の向上、3年生引退後の新チームの団結を深めるというものでした。

初日は午前がバス移動で、午後に長野県豊科高校と練習試合を行いました。普段よりも快適な環境での試合を通して新チームとなった自分たちの課題がチームで浮き彫りとなる結果になりました。夜のミーティングでは豊科高校との練習試合のビデオを全員で観て、チーム戦術に対する理解を深めました。

2日目は前日の試合とミーティングを踏まえてトレーニングを行いました。新体制のチームで、基本的な止める蹴るを固めたり、新しい戦術を落とし込んだりと合宿だからこそできる充実した内容を行うことができました。

夜のミーティングでは自分たちと似たフォーメーション、戦術のプロチームの動画を全員で観ました。今まで選手の間で解釈に差のあった部分が全員で一つの試合を見たことで同じイメージを持つことができました。

3日目は、合宿という時間を活かし、自分たちで行っているフィジカルメニューの調整をしました。じっくりと向き合うことで前よりもずっと質の高いトレーニングになったと思います。夜のミーティングでは、合宿で行った練習メニューについて普段の練習に取り入れることのできるよう話し合いました。メニューの意図を共有することができたので、練習の強度を高めることに繋げていきたいと思います。

最終日は、これまでの3日間の試合・練習を踏まえ、満身創痍になりながらも強度の高い対人練習に取り組みました。体力が限界に近い状態で強度の高い練習を行うによって、自分たちの強度の低さに気づくことができました。

この合宿で経験したものをきっかけにし、個人としてもチームとしても成長に繋げることができるようになり、選手権で結果が残せるよう努力していきたいです。最後に、おいしいご飯と快適な環境を提供してくださった切久保館の皆様、練習試合の対戦相手となってくださった長野県豊科高等学校の皆さん、ありがとうございました。

